



伊賀市 まち・ひと・しごと創生

今年度の事業報告(フィードバック)と今後予定する具体的な取り組みのご紹介

2017年3月22日

本日のご説明内容

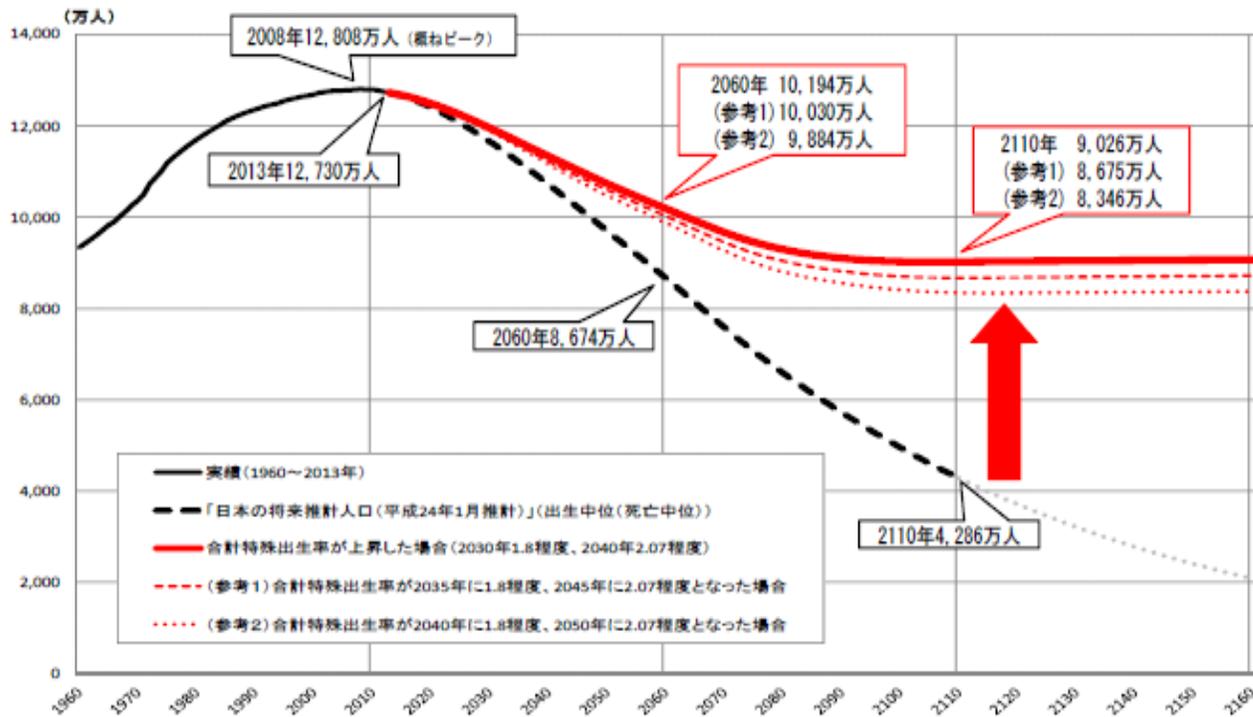
1. 事業の背景
2. 今年度の主な取り組みの紹介
 - シティプロモーション事業
 - IGAMONO(伊賀者)育成促進事業
3. 来年度に予定する取り組みのご説明
 - シティプロモーション会議
 - まちづくりラウンドテーブル

本日のご説明内容

1. 事業の背景
2. 今年度の主な取り組みの紹介
 - シティプロモーション事業
 - IGABITO(伊賀びと)育成事業
3. 来年度に予定する取り組みのご説明
 - シティプロモーション会議
 - まちづくりラウンドテーブル

人口減少社会へ対応するため、国・自治体がそれぞれ「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地方創生に取り組んでいます

地方創生の潮流

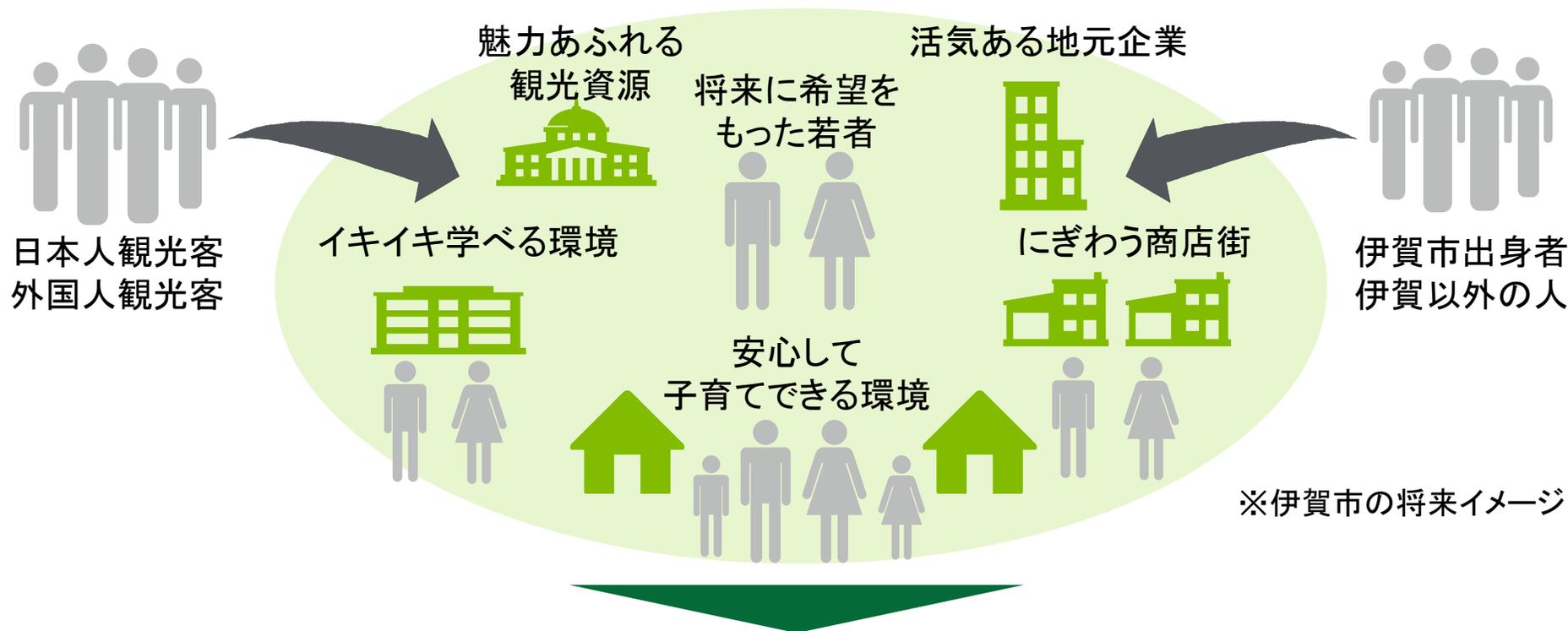


- 「人口減少時代」の到来
2008年に始まった人口減少は、今後加速度的に進むと見込まれる。人口減少は地方から始まり、都市部へ広がっていく。
- 「人口減少」が経済社会に与える影響
人口減少は、経済社会に対して重荷となり、地方では、地域経済の維持が重大な局面を迎える。
- 東京圏への人口の集中
東京圏への過度な人口集中は、日本全体の人口減少に結び付いている。

平成26年「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、地方創生が国の重点施策に。
国・自治体は「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、取り組みを推進している。

伊賀市においても、平成27年10月に伊賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しました。

来たい・住みたい・住み続けたい“伊賀”づくり



平成28年度から取り組む事業 【H28年12月に地域再生計画(内閣府)の認定を受けた3カ年計画】

1

ひとが輝く地域が輝くためのシティプロモーション事業

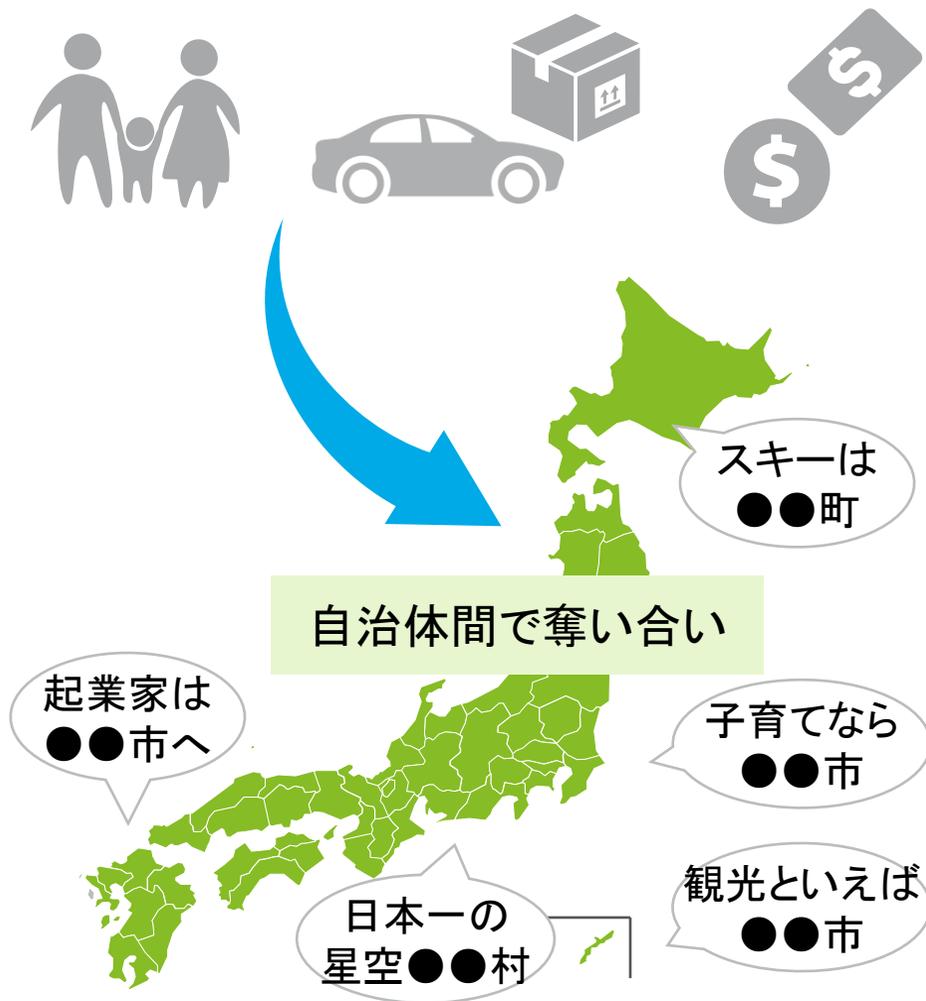
2

Uターンを視野に入れたIGAMONO(伊賀者)育成促進事業

1. 事業の背景
2. 今年度の主な取り組みの紹介
 - シティプロモーション事業
 - IGAMONO(伊賀者)育成促進事業
3. 来年度に予定する取り組みのご説明
 - シティプロモーション会議
 - まちづくりラウンドテーブル

シティプロモーションは、地域間競争において優位性を確立するための取り組みです

シティプロモーションの背景



シティプロモーションの概念

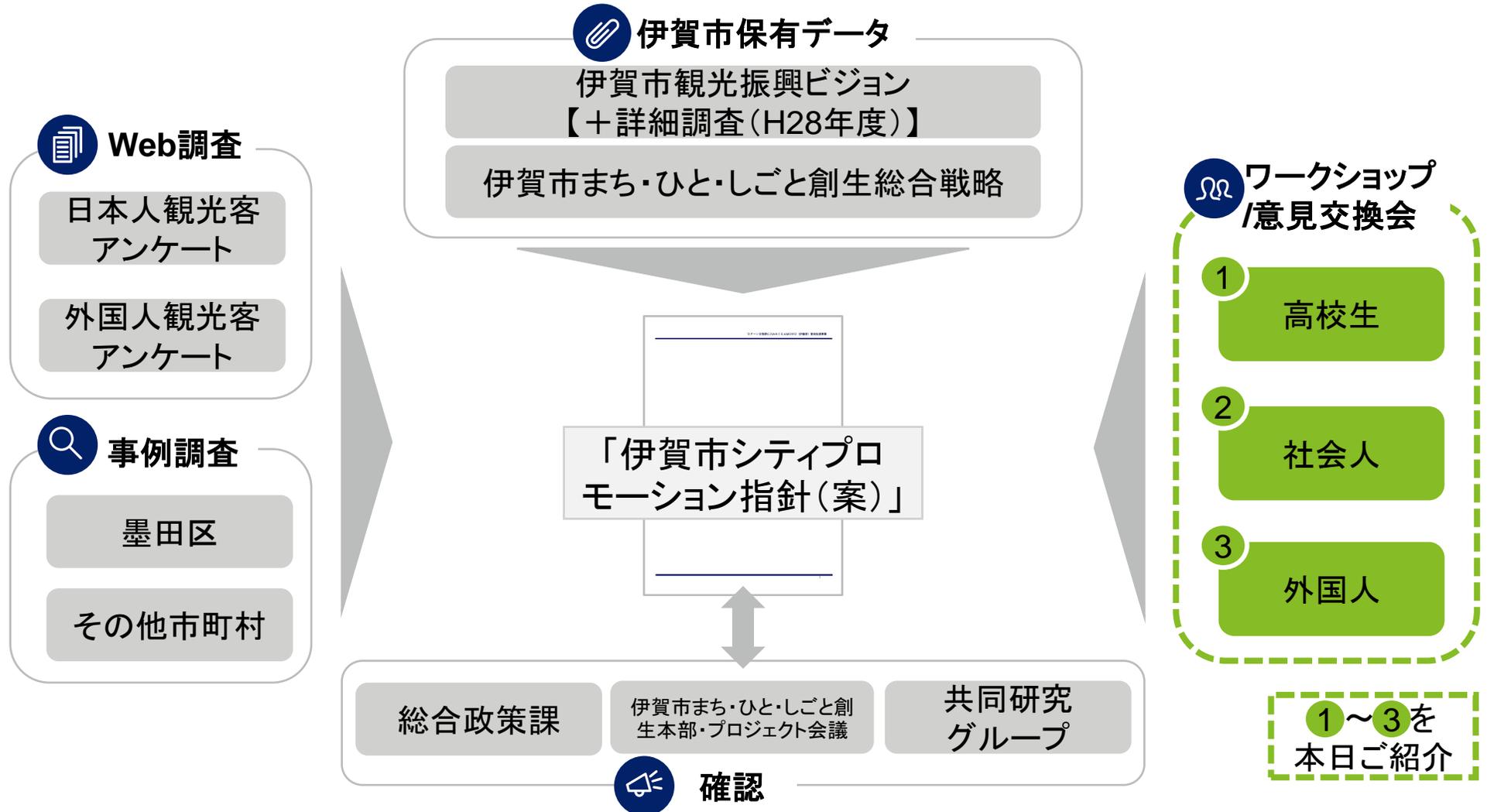
一般的に利用されている
シティプロモーションの概念



観光振興、住民協働、地域活性化など複数の概念や、以前から取り組んでいる施策を複合的に捉えたもの

シティプロモーション指針(案)は、市民の皆様にご協力いただいたワークショップを始め、各種調査と庁内会議を踏まえて検討を進めました

シティプロモーション指針(案)策定の経緯



高校生ワークショップにおいては、「伊賀市の魅力を探して、どうやって伝えるか考えよう」というテーマでアイデアをいただきました

① 高校生ワークショップの概要

概要

- ・ 日時:2017年2月5日(日)9:00-12:00
- ・ 参加者:伊賀白鳳高校、上野高校、あけぼの学園高校、桜丘高校の生徒14名
- ・ 内容:「伊賀市の魅力を探して、どうやって伝えるかを考えましょう」というテーマについて、各校混合のチームで話し合い、発表を行った後、市長が講評しました。



伊賀市内の高校合同で「伊賀文化祭」を開催！

伊賀鉄道沿線の魅力を伝える「忍者列車で行くIGAの街」企画！



豊かな自然と「忍者」を活用した総合アスレチック施設をオープン！

「伊賀の四季」の魅力を伝えるPR動画を作成し、世界へ配信！



社会人ワークショップにおいては、伊賀市を訪れる観光客にもっと満足してもらうためのアイデアを考案していただきました

② 社会人ワークショップの概要

概要

- ・ 日時: 2017年2月12日(日) 10:00-12:00
- ・ 参加者: 伊賀市内で就業する市民の皆様
- ・ 内容: 「伊賀市を訪れる観光客にもっと満足してもらうためのアイデアを考えましょう」というテーマについて、業種混合のチームで話し合い、発表及び意見交換を行いました



忍者が生き付く街として
伊賀の昔と今の魅力を
繋げて発信する

リアル伊賀越えなどイ
ンパクト重視の体験型
コンテンツを提供する



一年間を通じた忍者体
験、中心市街地で一日
中遊べる街にする

伊賀市民が本気を出し
て、忍者修行や食べ歩
きができる街をつくる



伊賀市在住の外国人による意見交換会においては、「忍者」の知名度の高さや、出身国別の嗜好の違いが明らかになりました

3 外国人意見交換会での意見

伊賀の良いところ

- 忍者
 - アニメ等の影響で、「忍者」の知名度は高いが、「伊賀」は知られていない。
 - 「忍者発祥の地」にはあまり興味は無い。忍者を満喫できればどこでも良い。
- 伊賀牛
 - 「日本産」というだけで、中国では人気がある。
- 伊賀焼
 - 特に欧米人は焼き物に関心がある。
 - 逆に、アジア(特に中国)は自国に焼き物があるため、日本の焼き物には関心がない。
- 温泉
 - 中国人には人気がある。
 - 欧米人や東南アジア人は他人に裸を見せるのに強い抵抗感があるため、温泉を好まない。
- 自然
- 寺

伊賀の悪いところ

- アクセスが悪い
 - 大阪、名古屋から乗り換えが多く、不便である。
- 街がさびしい
 - 上野市駅周辺に活気がない。
 - 上野市駅以外は、駅付近に観光で見る物がない。
 - スタバのようなカフェが無い。
- 買い物ができない
 - 中国人観光客は日本製の日用品を買って帰りたいが、伊賀には買う場所がない。
 - ショッピングモールが無い。
 - 駅から商店まで遠く、車が無いと買い物ができない。
- 夜に行くところがない
 - 夜7時には街が暗くなってしまう。

伊賀市のシティプロモーションは、①観光を軸としたまち全体のブランド化、②シビックプライドの醸成を主とした4つの取り組みを検討中です

伊賀市のシティプロモーション指針(案)

伊賀市のシティプロモーションのテーマ

テーマ:『忍びの伊賀、趣きの伊賀、奥深き伊賀』

伊賀市の重点取り組み方針

重点取り組み方針

1

「観光」を軸とした
まち全体のブランド化

2

シビックプライドの醸成

3

「伝わる」広報と
地域全体の情報発信力の向上

4

協働による事業の推進

期待効果

- 移住の促進
- 観光客の増加
- 特産品の売上増加
- 定住の促進
- 参画意識の向上
- Uターンの増加
- 上記の効果を加速
- 継続的な実行

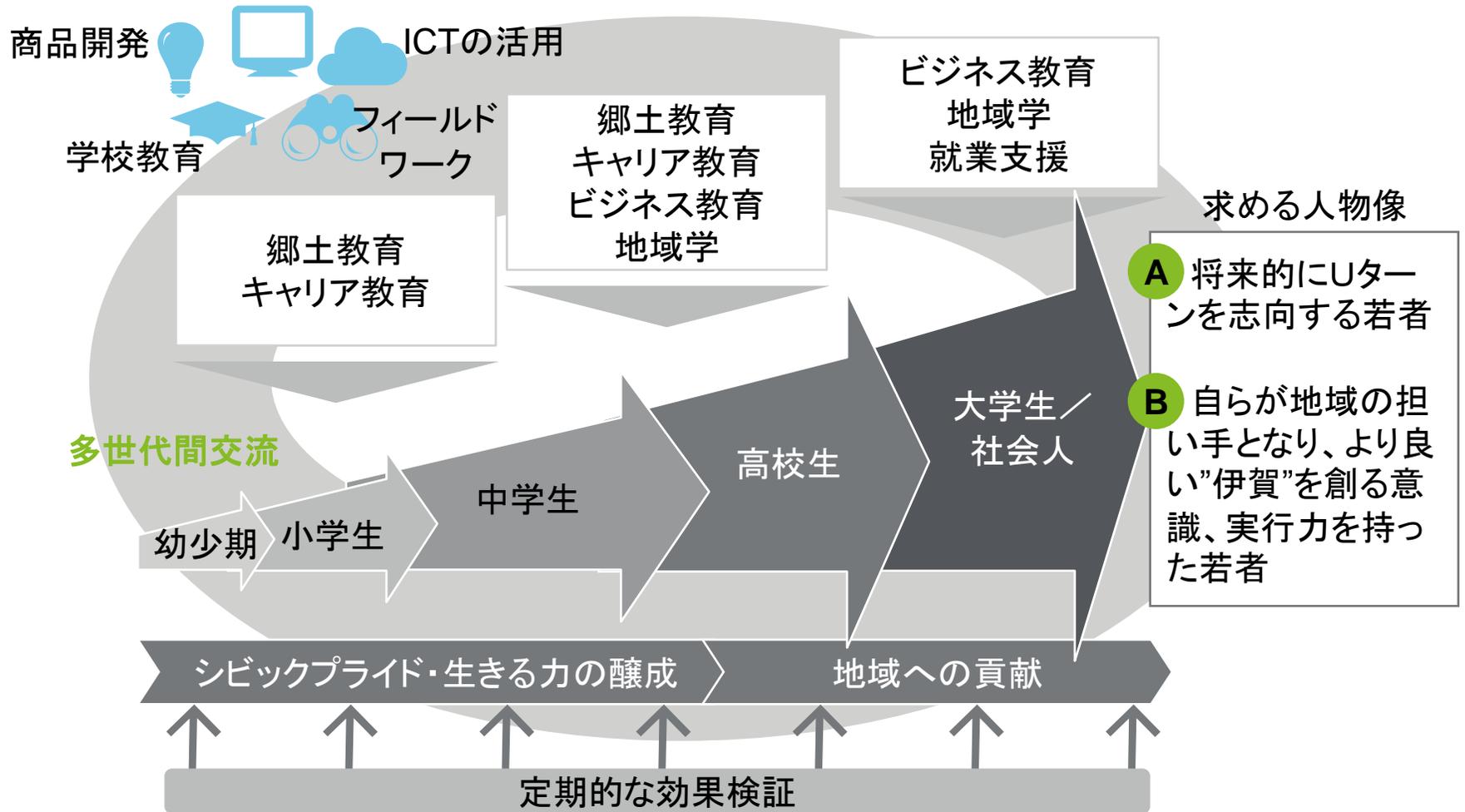


お手元に「伊賀市シティプロモーション指針(案)」を配布しております
p.9~14

1. 事業の背景
2. 今年度の主な取り組みの紹介
 - シティプロモーション事業
 - **IGAMONO(伊賀者)育成促進事業**
3. 来年度に予定する取り組みのご説明
 - シティプロモーション会議
 - まちづくりラウンドテーブル

世代に応じた必要な育成を継続的に実施することで、あるべき姿を実現をめざします

IGABITO育成の実現イメージ



ヒアリングを通じて、将来的にUターンを志向し、地域の担い手としての意識と実行力を有する若者の育成に求められるものを確認しました

ヒアリングの目的

—— 本事業で実現すること ——

A 将来的にUターンを志向する若者を育成する

B 自らが地域の担い手となり、より良い”伊賀”を創る意識、実行力を持った若者を育成する

C 持続的な”伊賀市”を人が生み出す好循環の仕組みを作る

—— ヒアリングでの確認事項 ——

AかつBのような人材になる(なってもら)うために何が必要であるか、市民目線のニーズ・現状課題を抽出

- 知りたいこと、知ってほしいこと
- やりたいこと、やってほしいこと
- 身に付けたいこと、身に付けてほしいこと
- 現状できない理由 等

取組が続くために何が必要か、市民目線のニーズ・現状課題を抽出

- 世代を通じて学び続けるため必要な仕組み
- 現状できない理由 等

—— ヒアリングの観点 ——

1

あるべき姿と現状のギャップ

2

好循環の仕組の構築と新たな教育

教育、労働、行政の各分野の皆様にはヒアリングへご協力いただきました

ヒアリングへご協力いただいた皆様の一覧

分類	#	対象者
教育	1	伊賀市内の高校に通う高校生
	2	伊賀市教育委員会
	3	伊賀市学校教育課
	4	伊賀白鳳高等学校
	5	上野高等学校
	6	あけぼの学園高等学校
	7	三重大学
	8	小中学校保護者

分類	#	対象者
労働	9	1次産業従事者
	10	2次産業従事者
	11	3次産業従事者
	12	ハローワーク伊賀
	13	いが若者サポートステーション
地域	14	上野東部地域住民自治協議会
	15	上野西部地域住民自治協議会
	16	丸柱地域住民自治協議会

ヒアリングを踏まえて収集した市民の皆様のご意見・考えをもとに、「伊賀の若者のUターン」促進の阻害要因を分析しました

ヒアリング内容(1/2)

A 将来的にUターンを志向する若者が少ないのはなぜか



最近の子どもは忙しく、
地域行事に参加する子供が
少なくなっている



魅力的な事業内容をもつ企業
はあるが、市内企業は魅力発
信が上手くできていないのでは

伊賀への愛着を醸成するため、
幼少期から歴史や文化等を伝
えていく必要性を感じる



高卒であれば、就職先・雇用の
受け皿が多いが、大卒では地
域での働き口が少ない



伊賀への愛着を貢献意欲に
結び付けるためには、若者同
士のコミュニティが必要である



正社員になれる企業は少なく、
IT企業なども伊賀に少ないため
やりたい仕事にマッチしない

課題

- 伊賀市にUターンしたいと考えていない
- 郷土愛・地域との繋がりが十分醸成されてない
 - 郷土愛はあるが、貢献意欲まで繋がっていない

課題

- 伊賀市へ帰りたい気持ちはあるが、帰れない
- 大卒で就職したいと思える働き口が、新卒・中途採用ともに少ない

ヒアリングやワークショップを踏まえて収集した市民の皆様の意見・考えをもとに、「伊賀の担い手」輩出の阻害要因を分析しました

ヒアリング内容(2/2)

B 自らが地域の担い手となり、より良い“伊賀”を創る意識、実行力を持った若者を育成する



伊賀のキャリア教育全体において身につける力を明確にし、小学、中学と段階的な取り組みを策定する必要がある



一度市外に出た後に伊賀に戻り、現在活躍しているような人に直接会う機会を多く作りたい

伊賀における地域の担い手育成の取り組みに関連性を持たせられるとよい



高校生の地域活動は単発で終わることが多かったため、継続的に取り組めるようにしたい



伊賀のことを英語で紹介できるよう、教育に取り入れてほしい



農家の家系外の人が農業を志すには、フィールドワークを含む体験型の教育が必要である

課題

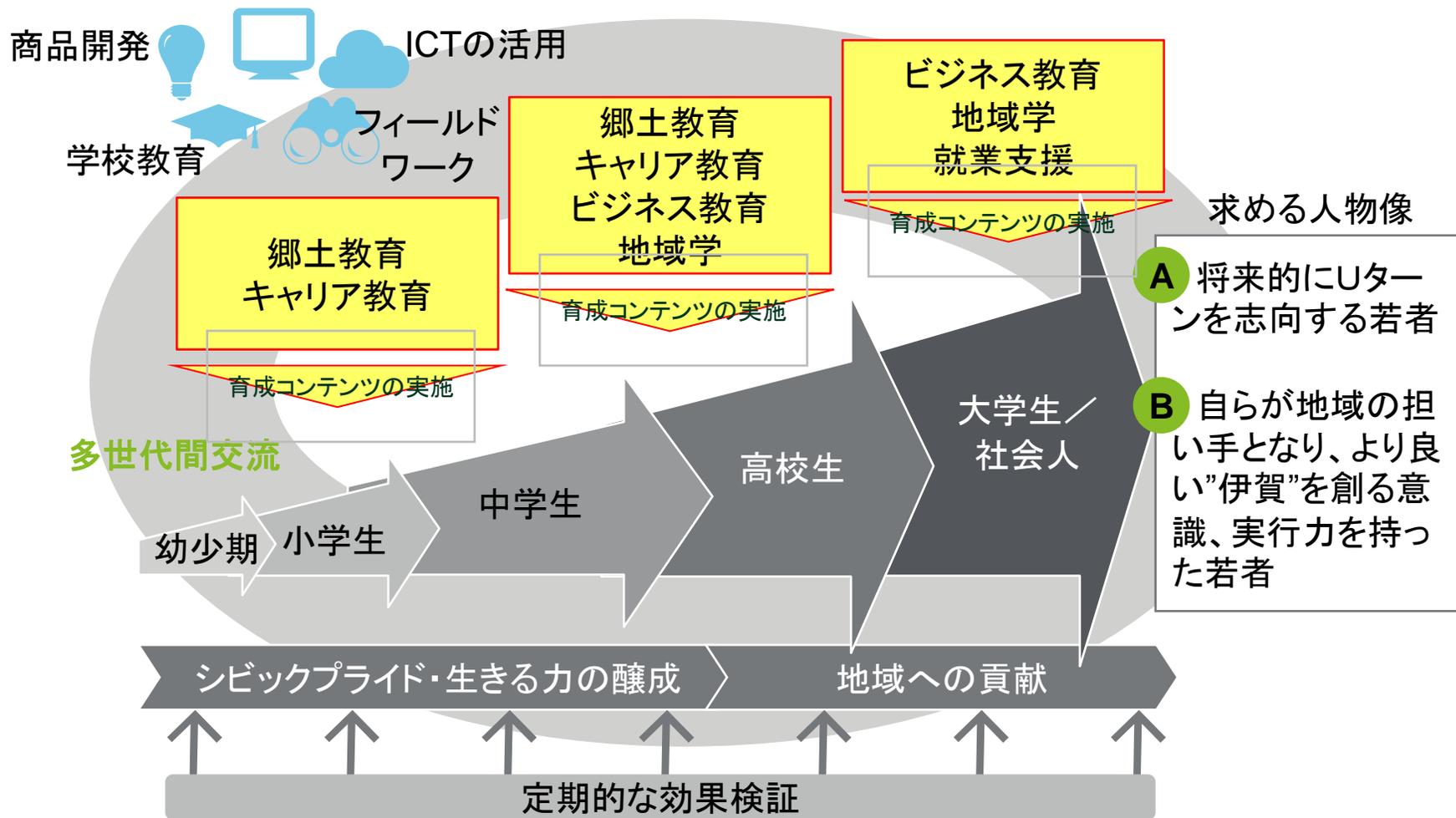
- 地域の担い手になる能力・知識が不足している
- ・ 高校と地域、小中高との連携が弱い
 - ・ 外国人とのコミュニケーション力が不足している

課題

- 担い手としての能力はあるが実行できていない
- ・ 地域貢献の具体的なイメージがない
 - ・ 担い手になるには制約が多く参入しづらい

世代に応じた必要な育成を継続的に実施することで、あるべき姿を実現します

IGABITO育成の実現イメージ



IGABITO育成コンテンツは、市民のニーズや各年代の特性に応じて必要な内容を検討しています

IGABITO育成コンテンツ(案)の分類

	シビックプライド・生きる力の醸成			地域への貢献	
	小学生	中学生	高校生	大学生	社会人
郷土教育	<ul style="list-style-type: none"> ●地域活動参加 ●地場企業見学 ●伊賀学セミナー*1 	<ul style="list-style-type: none"> ●町探検・伊賀MAP 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域イベント参画 	➤—	➤—
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ●市内教育DB*1 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域貢献・人材の事例発信 ●市内教育DB*1 	<ul style="list-style-type: none"> ●英語ボランティア ●市内教育DB*1 	➤—	➤—
ビジネス教育	➤—	➤—	<ul style="list-style-type: none"> ●産学連携企画コンペ 	<ul style="list-style-type: none"> ●地場産業インターン 	<ul style="list-style-type: none"> ●地場産業体験講座
地域学	➤—	➤—	<ul style="list-style-type: none"> ●地域課題を自ら考える取組(ワークショップ等) 	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりラウンドテーブル 	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりラウンドテーブル
就業支援	➤—	➤—	➤—	<ul style="list-style-type: none"> ●起業コンペ ●伊賀市合同説明会の早期化 	<ul style="list-style-type: none"> ●サテライトオフィス誘致、テレワーク支援

優先度

- 高
- 中
- 低

*1: 教育従事者向けの取り組みや仕組み

1. 事業の背景
2. 今年度の主な取り組みの紹介
 - シティプロモーション事業
 - IGAMONO(伊賀者)育成促進事業
3. 来年度に予定する取り組みのご説明
 - シティプロモーション会議
 - まちづくりラウンドテーブル

シティプロモーションとIGABITO育成において、事業を継続的に推進する仕組みが必要であると考えています

シティプロモーションとIGABITO(伊賀びと)育成について

伊賀市のシティプロモーションとは

『忍びの伊賀、趣きの伊賀、奥深き伊賀』をテーマに、「観光」を軸としたまち全体のブランド化」「シビックプライドの醸成」「『伝わる広報』と地域全体の情報発信力の向上」を市民が主体的に推進するもの。

目指す姿

定住人口及び交流人口の増加を実現し地域経済の活性化を目指す。

IGABITO(伊賀びと)とは

自らが地域の担い手となり、より良い“伊賀”を創る意識、実行力を持った若者。

目指す姿

地域の担い手である若者たちが、伊賀市に住み、住み続けることで、持続可能なまちづくりを市民が主体的に推進する。

IGABITO(伊賀びと)育成を含む、シティプロモーションを継続的に推進する仕組みの構築が必要

IGABITO(伊賀びと)育成を含む、シティプロモーションを継続的に推進する仕組みとして、来年度には2つの会議体を構築します

来年度設立する2つの会議体の概要

伊賀市まちづくりラウンドテーブル

年に2回、市民及び伊賀市出身者を集めた100名規模のワークショップを開催します

目的

- 市民及び伊賀市出身者が主体となって必要な取り組みを検討する

ポイント

- 市民の声や考えを集める。
- 市外在住の伊賀市出身の参加者も募集。若者同士の世代毎のコミュニティを形成することで結束力の強化、Uターンを促進する。

市民の
生の声

若者の
コミュニティ

伊賀市出身者
へ接触

シティプロモーション会議

ラウンドテーブルでのアイデアから実施すべき事業を抽出し、担当原課と実施主体とのマッチングを行い、実施主体を明確化します

目的

- ラウンドテーブルで出てきたアイデアの実現に向け、実施主体を明確にしたうえで、ヒト・モノ・カネを手当てする

ポイント

- 次年度以降に実施すべき事業を検討し、市担当課と実施主体とのマッチングを行い、実施すべき事業の実施主体を明確にする。

実施主体
の決定

市民の皆様のご意見を元に、会議の内容や構成を検討しました

ラウンドテーブル及びシティプロモーション会議設立の背景

現状への声

高校生(ワークショップ参加)

- このような機会は少ないのでいい経験になった。また参加したい。
- 同世代の人たちと話せて新たな発見があった。

社会人(ワークショップ参加)

- ワークショップでの内容が実現できると良い。机上の話し合いのみで終わらせてほしくない
- 議論の結果がどう反映されるか知りたい。

社会人(ヒアリング参加)

- 18歳から29歳の若年層との接点は、現時点では成人式のみで、その世代に対するアプローチがあまりない。
- 大学卒業後に良い企業に勤めたいという思いがあって伊賀を出る人たちは、やむを得ない事情がない限り、卒業後にUターンしない。

解決策のアイデア

社会人(ヒアリング参加)

- 若者同士が集まれるコミュニティがあるとよい。イベントを主催したり、最終的に議会に対して提言できるような場の提供などがあれば若者同士の結束が固まる。
- 若者が集い、地域の魅力・ブランド作り等を行うことが必要。地域でのイベント活性化による人材交流とリーダー作りを促進するのが良い。

伊賀市まちづくりラウンドテーブル

シティプロモーション会議

市内外の伊賀市出身者が、共に故郷の未来を考える場を設けることで、内から支える力と外から及ぼす影響のシナジー効果を目指します

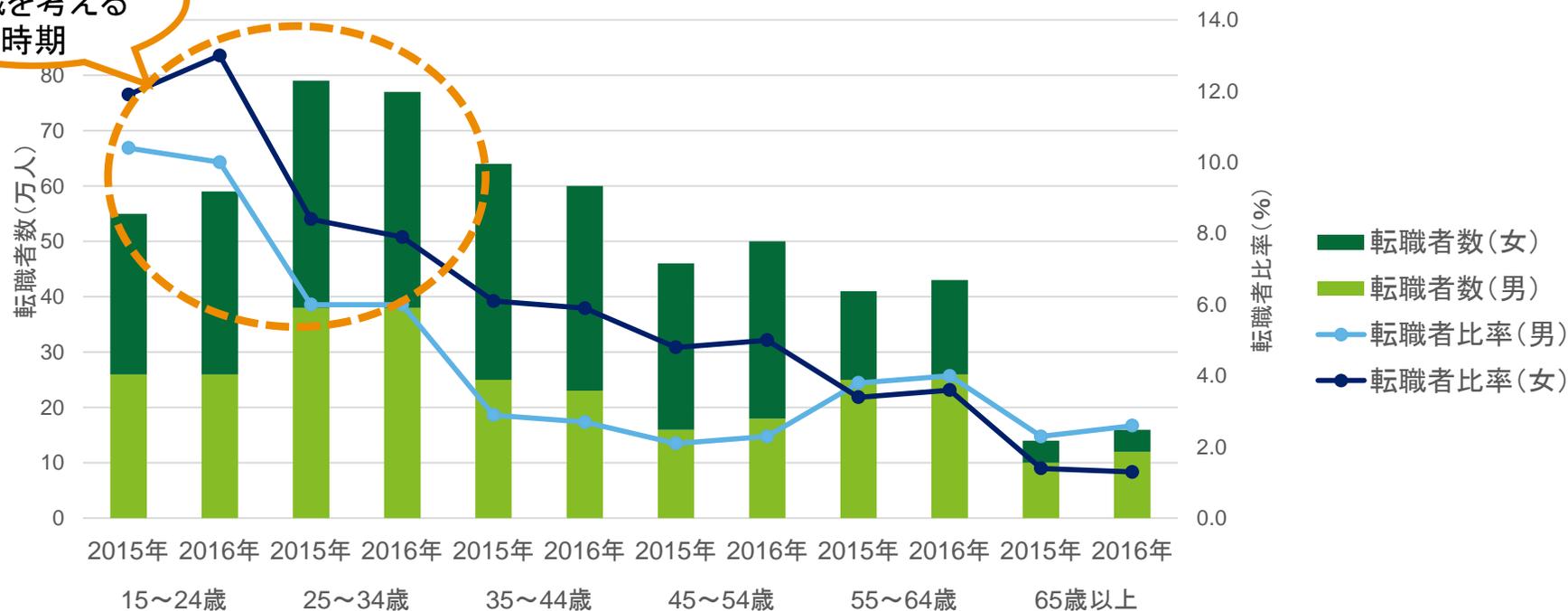
【参考】ラウンドテーブル-シティプロモーション会議設立の背景

重点取組

- 市外転出者(特に大学進学者)の心と足を伊賀に向けた取組強化
- 若者の結束力強化

年齢階級別転職者数及び転職者比率

多くの若者が
転職を考える
時期



まちづくりラウンドテーブルでは、「観光」「雇用」等の視点から年度ごとに優先度の高いテーマを選定し、議題とします

まちづくりラウンドテーブルの概要(仮)

伊賀市まちづくりラウンドテーブル

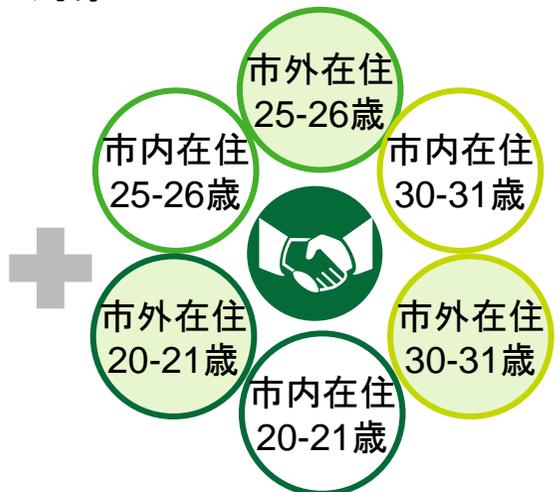
- テーマ: 観光客に満足してもらうために私たちができること(仮)
伊賀の担い手を増やすために私たちができること(仮)
- 対象: 高校生(20名程度)、大学生(10名程度)、社会人(20名程度)、外国人(10名程度)、同級生(20歳、25歳、30歳(各15名程度))
- 日時: 冬・夏の年2回

対象

テーマ(案)



市内在住の世代・職種を超えた意見交換会



転職を検討するタイミングで市内外在住の同級生が意見交換

~観光の視点~
誇れる伊賀市、
選ばれる伊賀市の実現

~雇用の視点~
住み続けたい伊賀の実現

※テーマは年度毎に優先度の高いテーマを検討し設定

シティプロモーション会議では、ラウンドテーブルで提案された事業案を整理し、事業化へ向けて実施主体のマッチングを推進します

シティプロモーション会議の概要(仮)

シティプロモーション会議

- 主催:伊賀市企画振興部総合政策課(仮)
- 参加者:商工労働課、農林振興課、広聴情報課、伊賀商工会、上野商工会議所、JAいがほくぶ、JC、市内教育機関、等
- 日時:10月頃
- 実施内容:ラウンドテーブルにて提案された事業案と事業実施主体のマッチング

<本部会議>

- 総合政策課
- 地域づくり推進課
- 広聴情報課
- 商工労働課
- 中心市街地推進課
- 農林振興課
- 観光戦略課
- 生涯学習課
- 学校教育課
- 高校教員 (必要な場合のみ)

📄 事業案A

📄 事業案B

📄 事業案C

<各部会>

○■部会

行政 教育機関

●△部会

行政

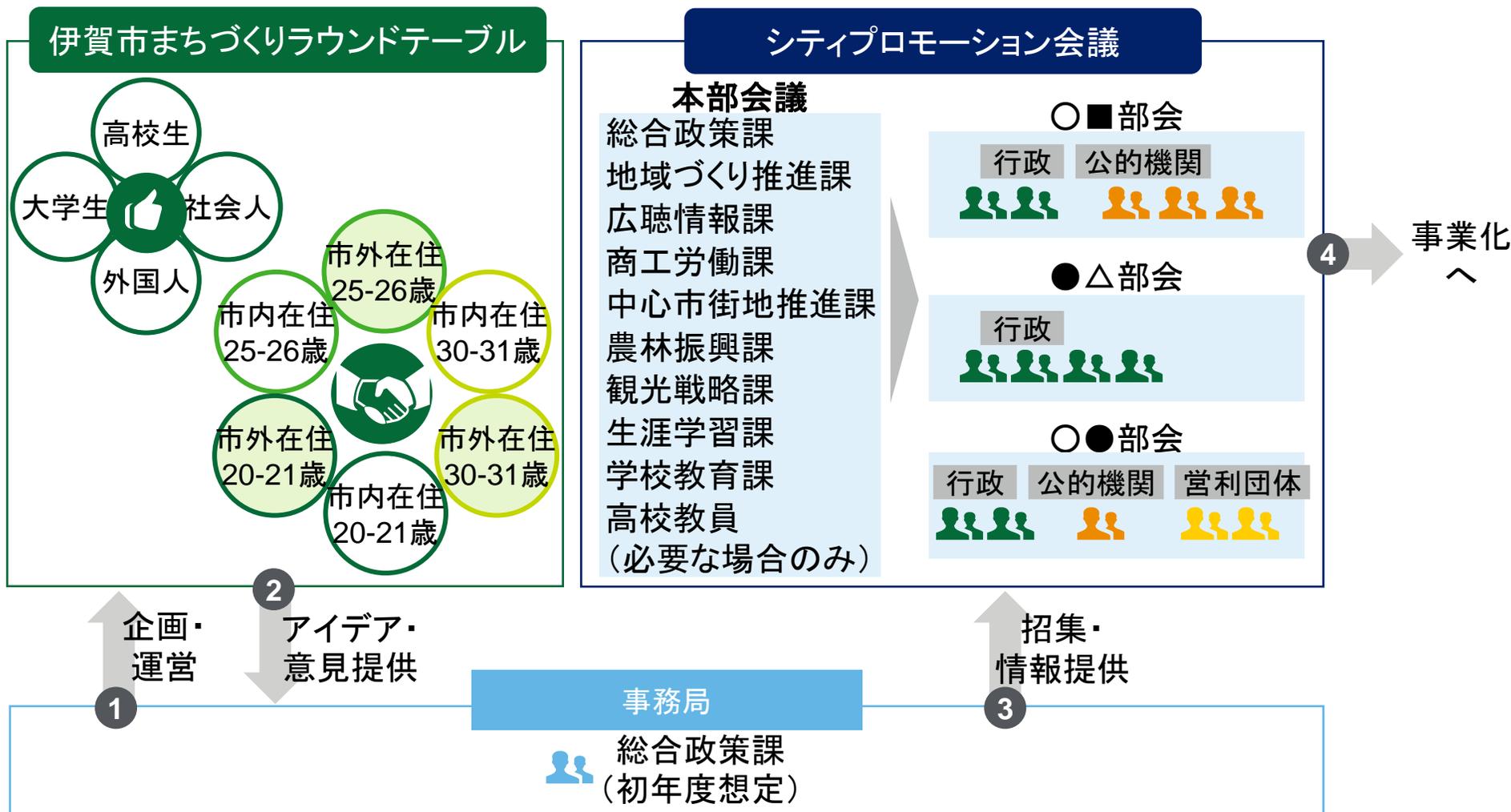
○●部会

行政 公的機関 営利団体

※部会は必要に応じて招集

まちづくりラウンドテーブルとシティプロモーション会議の初年度の運営は、事務局として行政が担う想定です

次年度発足の会議体の関係



12～1月と8月にまちづくりラウンドテーブルを開催し、10月頃にシティプロモーション会議で事業化に向けた討議を行います

会議体の運営スケジュール(仮)

構成員		10～11月頃	12～1月 (年末年始)	6月～7月	8月 (お盆)	9～10月頃
事務局	事務局員	✓ラウンドテーブル企画	✓運営 ✓アイデア・意見の集約	✓ラウンドテーブル企画	✓運営 ✓アイデア・意見の集約	✓本部会議の準備 ✓予算化
CP会議	本部会議 〇〇部会					✓事業化検討 ✓事業者とのマッチング
ラウンドテーブル	高校生 大学生 社会人 外国人 伊賀市出身同級生		✓ワークショップ参加		✓ワークショップ参加	